資料４

# 日本学術会議活動状況報告

# 会長及び副会長報告資料

日 本 学 術 会 議 活 動 状 況 報 告

2026 年 4 月 9 日

前回（第 195 回）総会以降の活動状況報告

**第１　会長等出席行事**

| 月　　日 | 行　事　等 | 対　応　者 |
|---|---|---|
| 10 月 27 日（月）<br>～28 日（火） | 日本学術会議第 195 回総会 | 光　石　会　長<br>三 枝 副 会 長<br>磯　副　会　長<br>日 比 谷 副 会 長 |
| 10 月 28 日（火） | 記者会見 | 光　石　会　長<br>三 枝 副 会 長<br>磯　副　会　長<br>日 比 谷 副 会 長 |
| 11 月 1 日（土） | 公開シンポジウム「プラネタリーヘルスの視点で捉える気候変動と災害：コミュニティの役割と挑戦」 | 光　石　会　長 |
| 11 月 3 日（月・祝） | 日本生化学会創立 100 周年記念式典 | 三 枝 副 会 長 |
| 11 月 4 日（火） | フィンランド科学・文学アカデミーとの会談 | 光　石　会　長<br>日 比 谷 副 会 長 |
| 11 月 6 日（木） | 共同主催国際会議「2025 年フォトニクス・電磁波工学研究に関するシンポジウム」開会式 | 光　石　会　長 |
| 11 月 7 日（金） | 日本学術会議主催学術フォーラム「循環経済の実現に向けたものづくりの役割」 | 光　石　会　長 |
| 11 月 10 日（月） | 駐日パキスタン大使との会談 | 光　石　会　長 |
| 11 月 10 日（月） | 京都賞授賞式 | 磯　副　会　長 |
| 11 月 12 日（水） | 武田医学賞贈呈式・祝賀式 | 磯　副　会　長 |

| | | |
|---|---|---|
| 11 月 16 日（日）<br>～18 日（火） | 第 24 回アジア学術会議 | 光　石　会　長 |
| 11 月 17 日（月） | 2025 年本田賞贈呈式及び受賞記念講演 | 磯　副　会　長 |
| 11 月 18 日（火） | ベトナム科学技術連合会副会長との会談 | 日 比 谷 副 会 長 |
| 11 月 22 日（土） | 公開シンポジウム「国立自然史博物館設立をめざして－自然史資料の保全、自然史科学の発展と将来への礎」（オンライン） | 磯　副　会　長 |
| 11 月 27 日（木） | 記者会見 | 光　石　会　長<br>三 枝 副 会 長<br>磯　副　会　長<br>日 比 谷 副 会 長 |
| 11 月 29 日（土） | 中国・四国地区会議学術講演会「持続可能な未来への挑戦：限界地域におけるイノベーションと総合知」 | 磯　副　会　長 |
| 12 月 5 日（金） | 九州・沖縄地区会議学術講演会「半導体が創る熊本の未来」 | 日 比 谷 副 会 長 |
| 12 月 12 日（金） | 中部地区会議学術講演会「これからのモビリティと社会受容性～自動運転実用化への課題と挑戦」 | 三 枝 副 会 長 |
| 12 月 12 日（金） | 世界科学フォーラム（WSF）2026 第２回運営委員会（オンライン） | 日 比 谷 副 会 長 |
| 12 月 19 日（金） | 小野田大臣との面会 | 光　石　会　長<br>三 枝 副 会 長<br>磯　副　会　長<br>日 比 谷 副 会 長 |
| 12 月 21 日（日） | 日本学術会議主催学術フォーラム「ケアの多様性・包摂性・公平性・持続可能性」 | 磯　副　会　長 |
| 12 月 23 日（火） | 記者会見 | 光　石　会　長<br>三 枝 副 会 長<br>磯　副　会　長<br>日 比 谷 副 会 長 |
| １月 27 日（火） | 第２回日本学術会議設立委員会合 | 光　石　会　長<br>三 枝 副 会 長 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 磯　副　会　長<br>日比谷副会長 |
| 1月27日（火） | 記者会見 | 光　石　会　長<br>三　枝　副　会　長<br>磯　副　会　長<br>日比谷副会長 |
| 1月29日（木） | 駐日スウェーデン大使館主催ノーベル賞受賞者祝賀会 | 光　石　会　長 |
| 1月30日（金） | 国際数学者会議（ICM）開催視察団との会談 | 日比谷副会長 |
| 2月3日（火） | 「第22回日本学術振興会賞並びに日本学士院学術奨励賞」授賞式 | 磯　副　会　長 |
| 2月4日（水） | 第42回井上学術賞・井上研究奨励賞、第18回井上リサーチアウォード贈呈式 | 磯　副　会　長 |
| 2月9日（月） | 第8回日本オープンイノベーション大賞表彰式 | 光　石　会　長 |
| 2月11日(水･祝) | 小野田大臣との懇談 | 光　石　会　長<br>三　枝　副　会　長<br>磯　副　会　長<br>日比谷副会長 |
| 2月11日(水･祝)<br>～12日（木） | 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2025 | 光　石　会　長<br>三　枝　副　会　長<br>磯　副　会　長<br>日比谷副会長 |
| 2月13日（金） | 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2025懇談会 | 磯　副　会　長<br>日比谷副会長 |
| 2月18日（水） | 日本学術会議主催学術フォーラム「炭素中立社会への賢明かつ公正な移行に向けた産官学連携の実践」 | 三　枝　副　会　長 |
| 2月18日（水） | JNTO/MICEアンバサダープログラム審査委員会 | 日比谷副会長 |
| 2月20日（金） | 仏科学アカデミー副会長との会談 | 光　石　会　長<br>日比谷副会長 |
| 2月27日（金） | 記者会見 | 光　石　会　長<br>三　枝　副　会　長 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 磯　副　会　長<br>日 比 谷 副 会 長 |
| ３月８日（日） | 公開シンポジウム「海洋生物と気候変動：解決と適応」 | 三　枝　副　会　長 |
| ３月 19 日（木） | 第５回国際学術会議（ISC）プラットフォーム会議（オンライン） | 三　枝　副　会　長<br>日 比 谷 副 会 長 |
| ３月 23 日（月） | 記者会見 | 光　石　会　長<br>三　枝　副　会　長<br>磯　副　会　長<br>日 比 谷 副 会 長 |

**第２　会長談話・会長メッセージ**

公表無し

**第３　提言等の承認**

〇提言

日本学術会議（科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、同分科会第６次男女共同参画基本計画小分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会）

「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正の実現を目指して－2030 年に向けた課題－」

（令和７（2025）年 10 月 27 日公表）

日本学術会議（循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会）

「気候危機に対処するための産官学民の総力の結集－循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への転換－」

（令和７（2025）年 10 月 27 日公表）

日本学術会議（科学者委員会研究評価分科会）

「研究の活性化へ向けた研究評価の具体的な改善方策」

（令和７（2025）年 11 月 27 日公表）

日本学術会議（我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会）
「研究力の危機と再構築：学術と社会を支える持続的な研究エコシステムの構築に向けて」
（令和７（2025）年 11 月 27 日公表）

日本学術会議（食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会、薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会）
「我が国の機能性食品制度に関わる課題とその対応」
（令和８（2026）年２月 27 日公表）

○見解
政治学委員会民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会、法学委員会ジェンダー法分科会
「女性の政治参画を進めるための制度改革と環境整備について」
（令和７（2025）年 11 月 17 日公表）

防災減災学術連携委員会
「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」
（令和７（2025）年 11 月 27 日公表）

若手アカデミー
「学術とスタートアップを両輪としたイノベーション創出に向けて」
（令和８（2026）年３月 23 日公表）

○報告
社会学委員会災害を克服する地域社会と社会的モニタリング検討分科会
「災害対応と復興政策のための社会的モニタリングと復興アーカイブの実質化を目指して」
（令和７（2025）年11月12日公表）

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会

「高等学校の生物教育における重要用語の選定について（2025年版）」

（令和７（2025）年 11 月 14 日公表）

心理学・教育学委員会心の科学のキャリアパス構築分科会

「心についての科学教育の未来像～よりよい社会を実現するために～」

（令和７（2025）年 12 月 19 日公表）

薬学委員会薬学教育参照基準検討分科会

「大学教育の分野別質保証のための教育編成上の参照基準薬学分野」

（令和７（2025）年12月22日公表）

社会学委員会価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会

「福祉の価値とイノベーションの創発による社会システムの共創」

（令和８（2026）年１月16日公表）

歯学委員会、歯学委員会基礎系歯学分科会、同委員会病態系歯学分科会、同委員会臨床系歯学分科会

「歯学分野の研究力の推移、及び歯学領域が抱える課題」

（令和８（2026）年２月 12 日公表）

地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会

「縮小社会を前提とした持続可能な国土・地域を構想するために」

（令和８（2026）年２月 20 日公表）

臨床医学委員会臨床ゲノム医学分科会

「DNA親子鑑定の実用化がもたらす家族観の揺らぎと法的・社会的課題」

（令和８（2026）年２月 24 日公表）

臨床医学委員会移植・再生医療分科会

「移植医療と再生医療の現状と課題―心停止後臓器提供と再生医療の治療をめぐって―」

（令和８（2026）年３月 13 日公表）

## 第４　学術フォーラム

次の日本学術会議主催学術フォーラムを開催した。

１　「循環経済の実現に向けたものづくりの役割」

（2025 年 11 月 7 日（金）日本学術会議講堂（オンライン併用））

２　「Future Earth と地球環境激変の 10 年：私たちはどこまで来たのか？これからどうすべきか？」

（2025 年 11 月 29 日（土）日本学術会議講堂（オンライン併用））

３　「世界の防災の未来：災害の経験をふまえたメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」

（2025 年 12 月 9 日（火）日本学術会議講堂（オンライン併用））

４　「環境化学物質の健康影響：その理解と健康をまもる生活環境の維持に向けて：１．環境化学物質の健康影響とは」

（2025 年 12 月 18 日（木）日本学術会議講堂（オンライン併用））

５　「ケアの多様性・包摂性・公平性・持続可能性」

（2025 年 12 月 21 日（日）日本学術会議講堂（オンライン併用））

６　「高齢者に優しいまちづくり：現場・自治体から学ぶ」

（2026 年２月７日（土）日本学術会議講堂（オンライン併用））

７　「炭素中立社会への賢明かつ公正な移行に向けた産官学連携の実践」

（2026 年２月 18 日（水）日本学術会議講堂（オンライン併用））

８　「STEM 分野の未来を支える多様性とは：教育・探究・キャリアをつなぐ対話--理系の男女差を解決する鍵は、小中教育？家庭？地域？」

（2026 年２月 21 日（土）日本学術会議講堂（オンライン併用））

９　「くらしを豊かにする化学の力 ―材料と分析の融合が拓く未来―」
（2026 年３月４日（水）日本学術会議講堂（オンライン併用））

10　「これからの研究インテグリティ・研究セキュリティ―先端材料研究開発分野を起点に考える産官学それぞれのあり方―」
（2026 年４月４日（土）日本学術会議講堂（オンライン併用））

**第５　国際会議の開催**

次の国際会議を開催した。

１　共同主催国際会議「2025 年フォトニクス・電磁波工学研究に関するシンポジウム」
（2025 年 11 月５日（水）～11 月９日（日）千葉県）

２　「持続可能な社会のための社会と技術に関する国際会議 2025」
（2026 年２月 11 日（水・祝）～２月 12 日（木）日本学術会議講堂（オンライン併用））

**第６　日本学術会議地区会議**

次の各地区会議主催講演会等を開催した。

１　中国・四国地区会議学術講演会「持続可能な未来への挑戦：限界地域におけるイノベーションと総合知」
（2025 年 11 月 29 日（土）鳥取県（オンライン併用））

２　九州・沖縄地区会議学術講演会「半導体が創る熊本の未来」
（2025 年 12 月５日（金）熊本県（オンライン併用））

３　中部地区会議学術講演会「これからのモビリティと社会受容性～自動運転実用化への課題と挑戦」
（2025 年 12 月 12 日（金）愛知県（オンライン併用））

**第７　会員の辞職及び任命**

１　会員の任命

小島　優子連携会員、田代　聡連携会員が、令和７（2025）年 11 月 26 日付で会員に任

命された。

## 第８　慶弔等

１　慶事

・**文化功労者**　令和７（2025）年 11 月３日発令

垣添　忠生（元会員（第 20 期）、元連携会員（第 21-22 期））

北川　進（元会員（第 22-23 期）、元連携会員（第 21 期、第 24-25 期））

小長谷　有紀（会員（第 25-26 期）、元連携会員（第 20-24 期））

澤本　光男（元会員（第 21－22 期）、元連携会員（第 23-24 期））

三浦　道子（元連携会員（第 21-24 期））

満屋　裕明（元会員（第 21-22 期）、元連携会員（第 20 期、第 23-24 期））

渡邊　浩（元連携会員（第 22-23 期））

・**文化勲章**　令和７（2025）年 11 月３日発令

北川　進（元会員（第 22-23 期）、元連携会員（第 21 期、第 24-25 期））

・**令和７年秋の叙勲受章者**　令和７（2025）年 11 月３日発令

【旭日大綬章】

蒲島　郁夫（元連携会員（第 20-21 期））

【瑞宝大綬章】

尾池　和夫（元連携会員（第 20-21 期））

【瑞宝重光章】

石渡　明（連携会員（第 23-26 期））

白石　隆（元連携会員（第 20 期、第 22-23 期））

吉川　洋（元会員（第 22-23 期）、元連携会員（第 20-21 期））

【瑞宝中綬章】

池田　雅夫（元連携会員（第 20-23 期））

井上　博允（元連携会員（第 20-21 期））

井堀　利宏（元連携会員（第 20 期）、元連携会員（特任）（第 22 期））

大垣　眞一郎（元会員（第 20-21 期）、元連携会員（第 22-23 期））

大峯　巖（元連携会員（第 20-23 期））

櫻田　嘉章（元会員（第 20-21 期）、元連携会員（第 22-23 期））

佐藤　洋平（元連携会員（第 20-21 期））

中條　善樹（元連携会員（第 23-24 期））

津田　敏隆（連携会員（第 20-26 期））

遠山　正彌（元連携会員（第 21-22 期））

本間　研一（元連携会員（第 20-25 期））

三木　千壽（元連携会員（第 20-21 期））

望田　研吾（元連携会員（第 22-23 期））

矢野　秀雄（元会員（第 20-21 期）、元連携会員（第 22-23 期））

・**令和７年秋の褒章受章者**　令和７（2025）年 11 月３日発令

【紫綬褒章】

塩谷　光彦（元連携会員（第 23-24 期））

田邉　新一（元会員（第 24-25 期）、連携会員（第 23 期、第 26-27 期））

日比谷　紀之（連携会員（第 25-26 期）、元連携会員（特任）（第 23-24 期））

森山　工（元連携会員（第 20 期、第 23-24 期））

熊ノ郷　淳（連携会員（第 25-26 期））

・**日本学士院新会員**　令和７（2025）年12月12日選定

川合　康三（元連携会員（第20-25期））

宮本　又郎（元会員（第20-21期）、元連携会員（第22-23期））

青木　玲子（元会員（第23期）、元連携会員（特任）（第23期）、
元連携会員（第24-25期））

長谷川　昭（元連携会員（第20-21期））

藤野　陽三（元連携会員（第20期））

大野　英男（元会員（第23-24期）、連携会員（第20-22期、第25-26期））

松岡　信（元連携会員（第 20 期））

・**日本学術振興会賞**　令和７（2025）年12月16日公表

樽野　陽幸（連携会員（第26-27期）、元連携会員（特任）（第25期））

八尾　史（連携会員（第25-26期））

・**日本学士院学術奨励賞**　令和８（2026）年１月13日公表

八尾　史（連携会員（第25-26期））

・**日本国際賞**　令和８（2026）年１月21日公表

審良　静男（元連携会員（第 20 期））

・**恩賜賞・日本学士院賞**　令和８（2026）年３月 12 日公表

後藤　由季子（会員（第 25-26 期）、元連携会員（第 23-24 期））

・**日本学士院賞**　令和８（2026）年３月 12 日公表

小谷　元子（元会員（第 23-24 期）、連携会員（第 21-22 期、第 25-26 期））

木本　恒暢（連携会員（第 25-26 期））

江刺　正喜（元連携会員（第 20-23 期））

伊賀　健一（元連携会員（第 21-22 期））

小山　二三夫（連携会員（第 25-26 期））

長田　裕之（連携会員（特任）（第 25 期、26 期））

・**みどりの学術賞**　令和８（2026）年３月 16 日公表

東山　哲也（連携会員（第 24-27 期））

２　弔事

・喜多　泰代（きた　やすよ）　2025年２月21日　享年65歳

連携会員（第21-26期）

国立研究開発法人産業技術総合研究所情報・人間工学領域

豊田自動織機－産総研アドバンスト・ロジスティクス連携研究ラボ　招聘研究員

・村井　祐一（むらい　ゆういち）　2026 年２月 26 日　享年 58 歳

連携会員（第 26-27 期）

北海道大学工学研究院教授

・青木　茂樹（あおき　しげき）　2026 年３月 24 日　享年 66 歳

連携会員（第 22-27 期）

順天堂大学健康データサイエンス学部長／大学院医学研究科放射線診断学教授

## 第９　その他

事務局人事異動

参事官（国際業務担当）　旧：大沼　和善

（令和７（2025）年11月１日付）

新：仁林　健

（令和７（2025）年11月２日付）

# 2025年11月から2026年4月の活動報告

第196回総会
第26期日本学術会議会長
光石衛

# 報告の内容



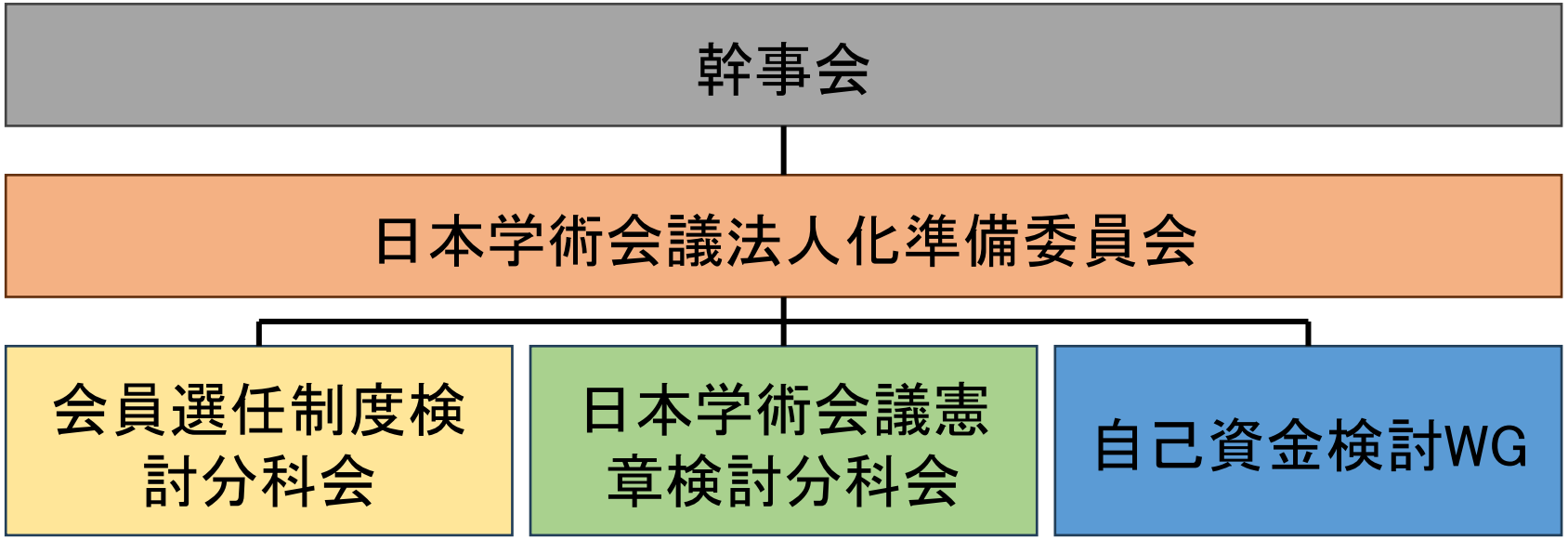
- 法人化準備について
- 日本学術会議第26期アクションプランについて
- その他の国際活動

# 法人化準備について（1）



## ■ 法人化準備委員会について

- 法人化後の日本学術会議の組織体制やガバナンス等、法人化に伴い検討が必要な事項について審議するため、2025年8月29日に日本学術会議法人化準備委員会、分科会・WGを設置
- これまでに計12回開催



# 法人化準備について（2）



## ■ 候補者選考の状況

- 候補者選考委員会の開催
  第１回（2025年11月18日）、第２回（12月18日）、第３回（12月26日）
  ⇒2026年１月９日　日本学術会議会員予定者の候補者の選考方針を決定
  第４回（2026年４月３日）
- 大学、研究機関、学会、経済団体その他の民間団体等の多様な関係者からの推薦：2026年１月～３月13日

## ■ 今後の日程

- 候補者選考委員会における選考：４月～７月頃
- 候補者の案を日本学術会議会長に提出：７月末頃～８月上旬頃

# 日本学術会議第26期アクションプランについて



○ 日本学術会議のより良い役割発揮に向けて、特に今期に重点的に進めていく事項

○ 幹事会構成員のほか、産業界、若手アカデミー、広報委員会などの会員・連携会員を加えた「第26期アクションプラン企画WG」（企画WG）を中心に、委員会・分科会等と協働して取り組む

1. タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化
2. 学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化
3. ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上
4. 産業界、NGO/NPO をはじめとする多様な団体、国民とのコミュケーションの促進
5. 学術を核とした地方活性化の促進
6. 情報発信機能の強化
7. 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

# 1. タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化



（具体的な取組）

✓ 課題解決型の助言機能強化

⇒ 速やかな意思の表出に向けて取り組む課題

- 「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」（2024年11月公表）
- 提言「生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて」（2025年２月公表）
- 提言「気候危機に対処するための産官学民の総力の結集－循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への転換－」（2025年10月公表）
- 提言「研究力の危機と再構築：学術と社会を支える持続的な研究エコシステムの構築に向けて」（2025年11月公表）
- 見解「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」（2025年11月公表）
- 提言「我が国の機能性食品制度に関わる課題とその対応」（2026年２月公表）

✓ 査読プロセスの改革による迅速化・見える化

⇒ 提言の助言手続きの合理化、意思の表出の進捗状況の可視化

✓ システムの活用を含む発出した提言等の確実なフォローアップ及び横展開の検討

⇒ 発出した提言等の確実なフォローアップを実施するためのスケジュール管理の徹底を周知

✓ 緊急時対応の検討

⇒ 緊急時における迅速な意思の表出等の対応について検討

# 日本学術会議の意思の表出と科学的助言機能の強化



## 速やかな意思の表出に向けて取り組む課題

**科学技術・イノベーション基本計画**

科学者委員会 学術体制分科会

➢ 第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言

**2024年11月公表**

2025年1月17日
CSTI基本計画専門調査会（第2回）において発表

**食品制度**

食料科学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・健康・生活科学委員会関係分科会合同※

➢我が国の機能性食品制度に関わる課題とその対応

**2026年2月公表**

※食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会、薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会

**生成AI**

情報学委員会

➢ 生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて

**2025年2月公表**

**2025年8月8日**
日本科学未来館とイベント予定

**量子技術**

情報学委員会

➢ 量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望（仮題）

速やかに発出予定

**カーボンニュートラル**

循環経済と自然再興を活かした炭素中立社会への移行に関する検討委員会

➢ 気候危機に対処するための産官学民の総力の結集
　－循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への転換－

**2025年10月公表**

**研究力強化**

我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会

➢研究力の危機と再構築：学術と社会を支える持続的な研究エコシステムの構築に向けて

**2025年11月公表**

**2025年7月25日**
CSTI基本計画専門調査会（第8回）において発表

**2025年11月28日**
CSTI本会議（第80回）において紹介

**2026年3月27日**
CSTI本会議（第84回）において紹介

**学術を核とした地方活性化**

学術を核とした地方活性化の促進に関する検討委員会

➢学術を核とした地方活性化の促進（仮題）

速やかに発出予定

**防災・減災**

防災減災学術連携委員会

➢能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え

**2025年11月公表**

# ２．学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化



（具体的な取組）

✓「未来の学術振興構想」の浸透・議論のためのフォーラムの開催及び学術研究振興分科会における更なる検討

⇒「未来の学術振興構想（2023年版）」の改訂に向けて、「学術の中長期研究戦略」の追加募集（2025年４月１月－10月１日）

⇒「学術の中長期研究戦略」の評価を行うとともに、「未来の学術振興のグランドビジョン」の取りまとめを行うため、学術研究振興分科会未来の学術振興構想評価小委員会を設置（2025年９月）

✓学協会との更なる連携の強化に向けた方策の検討

⇒「理学・工学系学協会連絡協議会」の継続的な開催

「生命科学系の学協会連合体との円卓会議」の継続的な開催

# 2. 学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化



## ■ 提言「研究の活性化へ向けた研究評価の具体的な改善方策」（2025年11月27日公表）

- 日本の研究の持続的発展と国際競争力の強化のため、定量的指標に過度に偏重せず、「研究活動の質を高める動機付けの仕組み」へと評価方法を転換
  - ナラティブCVの導入やピアレビューの高度化等、定性的な評価を重視する方法の推進
  - 研究者の能力向上等を促す「育成ツール」としての若手研究者評価の位置づけ
  - 社会的インパクト評価の強化、エンゲージメント（協働）の促進
  - オープンサイエンスを促進する評価指標と研究情報基盤の整備

## ■ 提言「研究力の危機と再構築：学術と社会を支える持続的な研究エコシステムの構築に向けて」（2025年11月27日公表）

- 日本の研究エコシステムの持続・活性化のためには、「研究者の雇用問題」が最も重要な課題であり、まずは、研究職の魅力を回復することが不可欠
  - 博士課程修了後5～10年の雇用枠を大学に配置する制度の創設等、持続的な研究者雇用システムの構築（安定性と流動性の両立）
  - 基盤資金と競争的資金の拡充とバランスの確保
  - リスク回避のための過剰コンプライアンスの抑制等、研究教育の成果最大化を追求するマネジメント（研究官僚制からの脱却）
  - 高度専門人材育成の中核としての大学院教育改革

# ３．ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上（１）



（具体的な取組）

✓国際アドバイザリーボードの開催

⇒2025年10月５日に第２回会合を開催

第２回国際アドバイザリーボード

✓世界のリーディングアカデミーとの連携、
アジア学術会議を軸としたアジア地域におけるリーダーシップの発揮

⇒2025年11月に第24回アジア学術会議（於：パキスタン）を開催

✓主要国若手アカデミー間の国際連携活動等を通した次世代育成

⇒2025年６月に開催された各国から若手研究者が集まるグローバルヤングアカデミー総会（於：インド）に若手研究者２名を日本学術会議の代表として派遣

⇒2025年７月に若手アカデミーがインターアカデミーパートナーシップ（IAP）のYoung Affiliateに加入

⇒本年度、新たに実施した「若手研究者海外派遣支援プロジェクト」において、2025年11月に開催された経済協力開発機構（OECD）のフォーラム（於：スロバキア）及び同年12月に開催されたインターアカデミーパートナーシップ（IAP）総会（於：エジプト）に若手研究者を派遣

# 3. ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上（2）

## ■ 国際アドバイザリーボードの開催

- 科学的な観点からの連携強化や日本学術会議の活動への助言等について、主要4ヶ国（英・独・仏・米）のナショナル・アカデミーの会長等と一堂に会し、活発に意見交換。
- 会合では、主に以下のような共通の認識を得た。
  - 科学的助言については、①「単一の正解」を出すのではなく、社会に選択肢と科学的根拠を提示することが使命、②提言の迅速化を図るとともに質を保証すべき
  - 市民・社会との対話については、①将来の科学技術を支える人材を育成するための、小学校段階を含む若年期からの科学教育、②科学的助言への信頼構築が重要
- 対面形式による率直な意見交換は参加アカデミーからも高い評価を得ており、2026年５月開催予定のGサイエンス学術会議でも同様の場の設置について主催国フランス側に提案、確定。

各国アカデミー代表者との意見交換の模様（2025年10月５日、於：京都）

# 3. ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上（3）

## ■ アジア地域におけるリーダーシップの発揮

Science Council of Asia

- 2025年11月、第24回アジア学術会議年次会合をパキスタンで開催。「食料安全保障、持続可能性、生物多様性」をテーマに、20ヶ国・地域より約150名が参加。日本学術会議が恒常的な事務局機能を担う。
- 会議では、第24回アジア学術会議大会宣言を採択し、以下の点が確認された。
  - 気候変動や生態系劣化への対処のための協働的な対策を進め、科学に基づく緊急かつ協調的行動を促進する
  - 科学アカデミーが研究・教育・人材育成を主導し、データ共有や共同研究を進め、国際機関や民間を含む多様なパートナーとの連携を加速する

開会式で挨拶する光石衛日本学術会議会長

ムハンマド・アスラム・ベイグSCA会長（当時）より日本学術会議への謝辞とともに記念品の贈呈を受ける光石衛日本学術会議会長

# 4. 産業界、NGO/NPO をはじめとする多様な団体、国民とのコミュニケーションの促進



（具体的な取組）

✓産業界からの会員・連携会員を核とした産業界との対話の促進

⇒COCNと、若手研究者の意見交換を実施（2025年7月）

⇒アクションプラン企画WGにおいて、新たな産業界との連携について検討

✓国民とのコミュニケーションの促進の具体化

⇒昨年に引き続き、こども霞が関見学デーの実施（2025年8月）

✓科学リテラシー向上のための取組

⇒日本科学未来館との協働イベントの開催（2026年8月8日開催予定）

# こども霞が関見学デーの実施

- こども（小中学生・幼児等）に向けて、日本学術会議を広く知ってもらう機会を設定
- 「こども霞が関見学デー」にあわせて実施
- 若手アカデミーによる「生き物」や「宇宙」等をテーマにしたこどもにもわかりやすい講演、ミニゲームなどのプログラムを企画

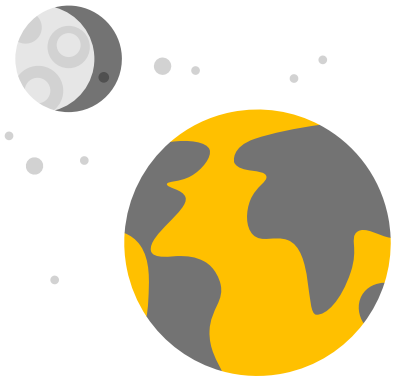
当日の様子（日本学術会議ウェブサイトより）

**若手アカデミー**
石川先生、木村先生による「いろんな生き物の子育て～進化の仕組みと家族をめぐる法律」についての講演の様子

日本学術会議YouTube
「こども霞が関見学デー」（2025年8月6日・7日）
https://youtu.be/16r0pUCRmFo?si=fHkZY5gEVwEu-1EF

# 科学リテラシー向上のための取組

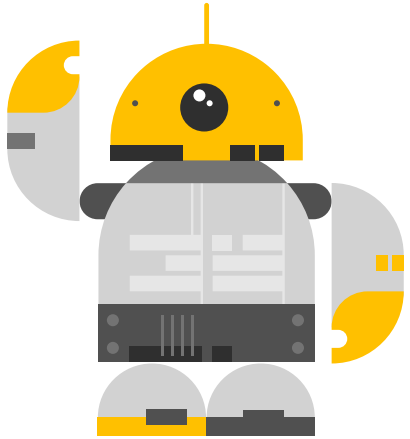




- 特に若い世代の科学リテラシー向上のため、全国の科学館・博物館等との連携により日本学術会議の活動を広めていくことが重要
- 日本科学未来館館長と企画WGで意見交換、視察を実施
  - ➢ 日本学術会議へ期待することなどをテーマ

⇒ 協働イベントの開催

引き続き連携方策について検討を進める



# 5. 学術を核とした地方活性化の促進

（具体的な取組）

✓地方学術会議等を活用した地方活性化に関する取組の検討

⇒日本学術会議 in 石川の開催（2025年８月２日）

✓「学術を核とした地方活性化の促進に関する検討委員会」（2025年１月設置）において意思の表出を予定

日本学術会議YouTube

能登半島事前訪問（2025年7月18日）

https://youtu.be/5t29nv5Qf2I?si=vPmBYEFxNHFS3dv8

日本学術会議in石川（2025年8月2日）

https://youtu.be/2_Izj5vE6Ns?si=58yYOw49WYEBH-AC

# ６．情報発信機能の強化
# ７．事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化



## ６．情報発信機能の強化

（具体的な取組）

✓国民・社会を意識したウェブページの充実

⇒ 地方学術会議やこども霞が関見学デーの動画の掲載等
（今後の動画についても検討中）

✓意志の表出の広報用チラシの作成

⇒ 国民の興味・関心を引き、本文の閲覧につなげる

✓プロフェッショナル人材等の活用

⇒ 日本学術会議アドバイザーとしてプロフェッショナル人材を委嘱

✓若年層への情報発信に向けた検討

## ７．事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

（具体的な取組）

✓企画WGによるアクションプランの推進体制の強化

✓アクションプランを踏まえた事務局体制の強化（継続検討中） 等

# 日本学術会議第26期アクションプランについて（より良い役割発揮に向けてとの関係）

**日本学術会議のより良い役割発揮に向けて**

**日本学術会議第26期アクションプラン**

1 国際活動の強化

2 科学的助言機能の強化

3 対話を通じた情報発信力の強化

4 会員選考プロセスの透明性の向上

5 事務局機能の強化

3.ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上

1.タイムリー、スピーディな意思の表出と助言機能の強化

2.学術の発展のための各種学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブとしての活動強化

4.産業界、NGO/NPO をはじめとする多様な団体、国民とのコミュニケーションの促進

5.学術を核とした地方活性化の促進

6.情報発信機能の強化

7. 事務局機能の拡充を含む企画・執行体制の強化

# その他の国際活動

## 2025年

| | |
|---|---|
| 11月4日 | フィンランド科学・文学アカデミーとの会談 |
| 11月10日 | 駐日パキスタン大使との会談 |
| 11月16日 | 第 24 回アジア学術会議（パキスタン） |
| 12月12日 | 世界科学フォーラム（WSF）2026 第2回運営委員会（オンライン） |

## 2026年

| | |
|---|---|
| 1月29日 | 駐日スウェーデン大使館主催ノーベル賞受賞者祝賀会 |
| 2月11日～12日 | 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2025 |
| 2月20日 | 仏科学アカデミー副会長との会談 |
| 3月19日 | 第5回国際学術会議（ISC）プラットフォーム会議（オンライン） |

# 組織運営・科学者間の連携 報告

（ 2025年10月～2026年３月）

１　科学者委員会・同分科会
２　地区会議
３　地方学術会議
４　財務委員会

日本学術会議第196回総会（ 2026年４月９日）

担当副会長　三枝　信子

# 1　科学者委員会･同分科会

科学者委員会　（委員長: 三枝 信子）

- 科学者コミュニティに関する全体的課題の検討
- 分科会の課題の調整

**科学者委員会**

- ジェンダー･エクイティ分科会
- 学術体制分科会
- 学協会連携分科会
- 研究評価分科会
- 学術研究振興分科会

# 1　科学者委員会・同分科会

## (1) ジェンダー・エクイティ分科会　（委員長：髙橋 裕子）

- 科学に関する男女共同参画の推進に関する審議

| | |
|---|---|
| **女性活躍促進目標（30%）の達成に向けて** | ・大学・研究機関や学協会の実情の調査を基に、改善に向けて検討 |
| **ジェンダー関連分科会の25期までの活動を総括** | ・共通課題を整理し、今後の課題を明確化 |
| **学術におけるダイバーシティの推進** | ・現状を調査・分析し、今後の課題を整理 |
| **上記の取組によって得られた知見や改善に向けた課題の周知・普及** | ・第6次男女共同参画基本計画に対する提言の発出<br>・併せて、包括的反差別法の制定に向けた提言を発出予定 |

# 1　科学者委員会・同分科会

## (2) 学術体制分科会　（委員長：林　和弘）

● 学術の制度・振興等に関する諸問題の審議

**第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けた検討**

- 第7期科学技術・イノベーション基本計画（2026年3月までに閣議決定予定）に向けた検討を行い、2024年11月に提言「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」を公表
- ➢ 総合科学技術・イノベーション会議基本計画専門調査会（第2回）（2025年1月17日開催）等において、光石会長及び林委員長からプレゼン
- ➢ その他、提言のフォローアップについて検討

**その他**

- 学術体制・学術法制の国際比較調査・課題の整理
- 中長期的観点から、学術を学際的・文理融合的に推進するための在り方の検討

# 1　科学者委員会･同分科会

## (3) 学協会連携分科会　（委員長: 三枝 信子）

- 学協会と日本学術会議の連携推進
- 学協会の機能強化に関する諸課題の審議

| | |
|---|---|
| 連携 | ・ 日本学術会議と学協会の新たな連携体制づくりの検討 |
| 規定見直し | ・ 学協会、学会連合、連携体等のあり方を検討するとともに、協力学術研究団体の規定の見直しを検討 |

■協力学術研究団体
2,213団体（2026年３月現在）　※第26期 83団体承認

# 1　科学者委員会･同分科会

## (4) 研究評価分科会（委員長: 尾崎 紀夫）

● 研究評価のあり方についての全体的検討

研究評価のあり方

- 関連する過去の提言等のフォローアップ
- 国内外の研究評価のあり方についての調査
- 分野別研究評価のあり方についての検討
- 若手支援としての研究評価のあり方についての検討

➢ 2025年11月に提言「研究の活性化へ向けた研究評価の具体的な改善方策」を公表
➢ 提言のフォローアップを実施中

# 1　科学者委員会・同分科会

## (5) 学術研究振興分科会（委員長： 森田 一樹）

● 重要な学術研究の計画に関する検討に係る審議

**提言「未来の学術振興構想（2023年版）」の周知・普及**

・第25期提言「未来の学術振興構想（2023年版）」の周知・普及を行い、国民等の思いやニーズ・関心を把握するための双方向コミュニケーションの充実を図る。

**未来の学術振興構想の更新の検討**

・19の「グランドビジョン」の実現のために必要な「学術の中長期研究戦略」を追加募集するとともに、既掲載の「学術の中長期研究戦略」について「学術研究構想」の進展等に伴う改訂を実施し、それらを踏まえての「未来の学術振興構想」の改訂を実施

➢ 改訂に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募結果
- ■ 公募区分Ⅰ（新規）：24件
- ■ 公募区分Ⅱ（改訂）：前期掲載184件中175件が継続掲載希望（うち 改訂あり123件、改訂なし52件）

➢ 「未来の学術振興構想評価小委員会」を設置（2025年９月26日）し、提案された「学術の中長期研究戦略」の評価・審査を実施

# 1　科学者委員会・同分科会

## ■開催状況及び主な議題

### 科学者委員会

第22回～第25回　（メール審議）
・協力学術団体の指定について
・後援名義について 等

### (1) ジェンダー・エクイティ分科会

◇第12回（メール審議）
・提言（案）「包括的反差別法の制定に向けて多種多様な差別を解消するために」の承認について

### (2) 学術体制分科会

◇第7回（2025.10.23）
・提言のフォローアップ活動について　等

### (3) 学協会連携分科会

◇第3回
・協力学術研究団体の規定見直し

### (4) 研究評価分科会

◇開催なし（提言のフォローアップを実施中）

### (5) 学術研究振興分科会

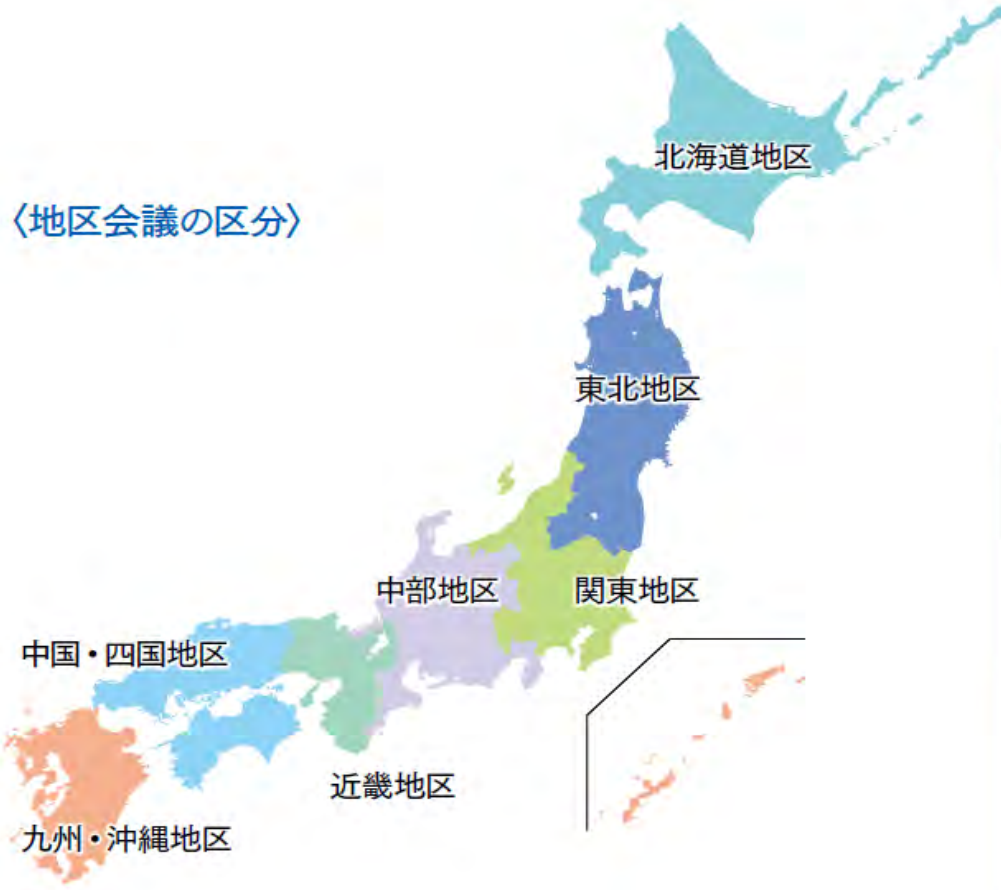
◇第8回（2026.2.12）＊未来の学術振興構想評価小委員会合同会議
・審査結果を踏まえた「学術の中長期研究戦略」の分類・掲載等の検討　等

◇第9回（2026.3.26）
・「未来の学術振興構想」改訂版のフォローアップについての検討　等

# 地区会議

- 日本学術会議と科学者間の意思疎通
  - 地区の科学者等への日本学術会議の諸活動の周知
  - 日本学術会議に対する意見、要望の汲み上げ

- 地域社会の学術の振興
  - 科学者との懇談会や学術講演会等の開催
  - 地区会議ニュース等の発行
  - 地域社会の学術の振興に資する事業の推進




**◆ 地方連絡委員会議の開催**

各地区会議の活動の活性化、学術会議や各地区との連携強化の観点から、地方連絡委員（各地区の関係大学事務局職員に委嘱）に参加いただき、2025年３月より「地方連絡委員会議」を開催し、活動状況の情報共有や課題解決に向けた意見交換などを行っている。

# 2　地区会議

## ◆　学術講演会（2025年８月～2025年12月）

| 開催日 | 地区 | 開催形式 | 演題 | 挨拶 | 参加者 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ８月７日（木） | 北海道 | 北海道大学（ハイブリッド開催） | 「次の新興･再興感染症にどう備えるか」 | ― | 345名 | 第二部会、北海道大学と共催 |
| ８月７日（木） | 東北 | 東北大学（ハイブリッド開催） | 「研究者になって世界を駆け巡ろうⅡ～研究者の卵たちと共に未来を描く～」 | 光石会長 | 230名 | 第三部会、東北大学と共催 |
| ８月10日（日） | 北海道 | 函館市亀田交流プラザ（ハイブリッド開催） | 「AI時代に「対話」の意味を考える―熟議がつむぐ知と社会」 | 日比谷副会長 | 247名 | 第一部会、公立はこだて未来大学と共催 |
| ９月13日（土） | 近畿 | 京都大学（ハイブリッド開催） | 「社会の持続可能性と水問題」 | 三枝副会長 | 351名 | 京都大学と共催 |
| 11月29日（土） | 中国<br>四国 | 鳥取大学（ハイブリッド開催） | 「持続可能な未来への挑戦：限界地域におけるイノベーションと総合知」 | 磯副会長（オンライン） | 92名 | 鳥取大学と共催 |
| 12月５日（金） | 九州<br>沖縄 | 熊本大学（ハイブリッド開催） | 「半導体が創る熊本の未来」 | 日比谷副会長（オンライン） | 167名 | 熊本大学と共催 |
| 12月12日（金） | 中部 | 名古屋大学（ハイブリッド開催） | 「これからのモビリティと社会受容性　～自動運転実用化への課題と挑戦」 | 三枝副会長 | 274名 | 名古屋大学と共催 |

## ◆　地区会議ニュース

（2025年12月発行）　中部地区（No158）

（2026年３月発行）　北海道地区（No56）、東北地区（No40）、中部地区（No159）、近畿地区（No35）、中国・四国地区（No57）、九州・沖縄地区（No124）

※各地区の会員・連携会員の他、教育機関・研究機関等に配布するとともに、学術会議ホームページにも掲載

# ３　地方学術会議

●地方創生に関する取組強化のため、2018年度(平成30年度)から開催

◆ 開催状況（第24期～第26期）

- 「日本学術会議 in京都」(2018.12.22)
  共催：京都産業大学、京都府立大学、京都大学
- 「日本学術会議 in北海道」(2019.2.16)
  共催：北海道大学
- 「日本学術会議 in富山」(2019.6.28)
  共催：富山大学
- 「日本学術会議 in山口」(2020.9.27)
  共催：山口大学
- 「日本学術会議 in福岡」(2022.2.23)
  共催：九州大学
- 「日本学術会議 in宮城」(2022.11.5)
  共催：東北大学
- 「日本学術会議 inつくば」（2023.2.15）
  共催：国立研究開発法人 防災科学技術研究所、
  同 国立環境研究所
- 「日本学術会議 in石川」(2025.8.2)
  共催：金沢大学

➢ 第26期地方学術会議委員会

● 地方学術会議に関する事項について審議

開催状況

◇第１回（2024. 3. 28）
役員の選出、地方学術会議の今後の進め方について

◇第２回（2024. 10. 28）
地方学術会議の今後の進め方について　等

◇第３回（2025. 11. 18）
「日本学術会議in 石川」の開催報告について、
地方学術会議の今後の進め方について　等

# ４　財務委員会

## 財務委員会　（委員長: 三枝 信子）

●2026年度 審議等予算（4～9月分）の配分

2026年度審議等（4～9月分）にかかる手当・旅費について、総会や各種委員会等の活動状況、時勢等を踏まえ配分を行った。

●2026年度 審議等予算の執行

配分した予算についてはこれまでと同様、各部等に予算執行計画を委ねつつ、事務局との間でも緊密な連携を図る。また、財務委員会においても予算執行状況を注視し、適時適切なタイミングにおいて弾力的な予算執行に努める。

# 日本学術会議総会報告
# 政府、社会及び国民等との関係
# （2025.10～2026.3）

１　科学と社会委員会
２　課題別委員会
３　広報委員会
４　科学的助言等対応委員会
５　その他

2026年４月９日

担当副会長　　磯　博康

# 1. 科学と社会委員会

（委員長：磯　博康）

国民生活に科学を反映浸透させ、科学に対する理解の増進を図る。
※　年次報告検討分科会やサイエンスカフェ（直近半年間は開催なし）

# 2. 課題別委員会

社会が抱えるその時々の課題のうち特に重要な課題について日本学術会議において審議し、科学者コミュニティを集約した適切な意見を時宜に応じて提言する。

| | 委員会名 | 設置時期 | 委員数 | 委員会開催実績（今期累計） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 防災減災学術連携委員会 | 2024年１月25日 | 22名 | ９回 |
| 2 | フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会 | 2024年２月29日 | 20名 | ８回 |
| 3 | 循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会 | 2024年５月31日 | 15名 | 18回 |
| 4 | 我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会 | 2024年８月30日 | 19名 | 13回 |
| 5 | 学術を核とした地方活性化の促進に関する検討委員会 | 2025年１月23日 | 16名 | ５回 |

# ３．広報委員会

（委員長:磯　博康）

## 広報委員会

**■日本学術会議の広報全般について審議**

第１回（2023.11.15）役員の選任、分科会の設置、学術会議広報の進め方について議論
第２回（2024. 6.25）学術会議広報（ホームページ、パンフレット、動画、学術の動向）について議論
※国内外情報発信強化分科会と合同開催

## 「学術の動向」編集分科会

**■「学術の動向」の企画及び編集に関することを審議**

**■ 日本学術協力財団の編集委員会と協力**

第１回（2023.12.21）役員の選任、『学術の動向』の編集について議論
第２回（2024.2.20）、第３回（2024.5.8）、第４回（2024.8.16）『学術の動向』の編集について議論
第５回（2025.1.27）『学術の動向』の休刊と今後の情報発信の進め方について議論
第６回（2025.5.1）『学術の動向』の今後の展望についての検討

## 国内外情報発信強化分科会

**■ 日本学術会議の活動に係る国内・海外への情報発信に関することを審議**

第１回（2024.2. 8）役員の選出、分科会、学術会議広報の進め方について議論
第２回（2024.3.28）学術会議広報(ホームページ、年次報告、パンフレット、ニュースメール、SNS、SSH等次世代へのリーチ、学術の動向、地域等との連携)について議論
第３回（2024.6.25）※広報委員会と合同開催

# 3．広報委員会

（委員長：磯　博康）

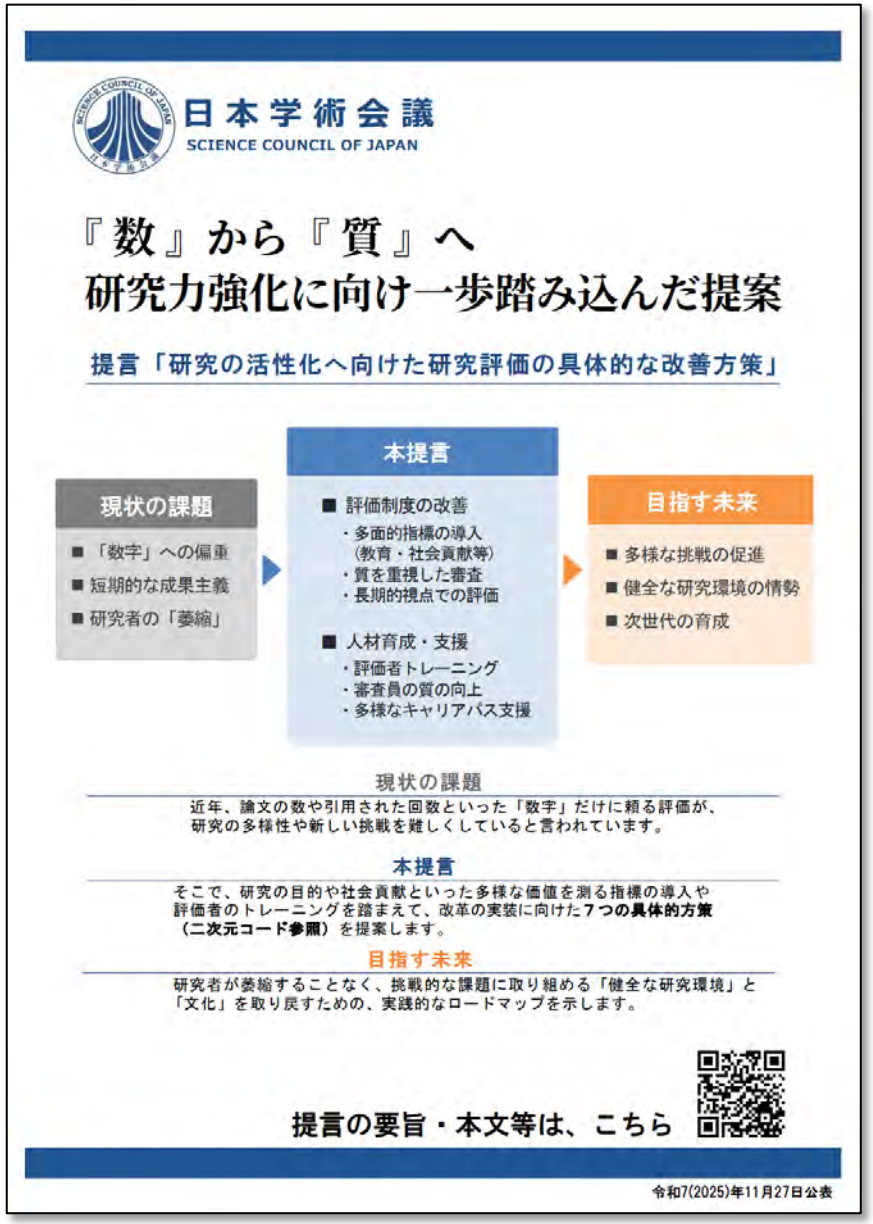
広報活動強化の具体的な取組

## ■意思の表出の「広報用チラシ」の作成

- 2025年12月23日の幹事会において、意思の表出の「広報用チラシ」を作成することが決定
- 提言は原則すべて、意思の表出を作成した分科会等の責任において作成（その他の意思の表出は必要に応じて）
- 一般の国民が興味・関心を抱き、本文の閲覧につながるような広報用チラシを作成
- 片面1ページとし、一般国民を引き付けるわかりやすく親しみやすい記載
- 日本学術会議ウェブサイトにて公表

➢ 別途、短い動画コンテンツ（ショート動画）の作成に向けた検討を開始している

広報・コミュニケーションのプロフェッショナル人材を広報アドバイザー・学術調査員として委嘱・採用し、広報用チラシ等も含め、コンテンツの作成や助言を得る体制を整えている



日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

『数』から『質』へ
研究力強化に向け一歩踏み込んだ提案

提言「研究の活性化へ向けた研究評価の具体的な改善方策」

現状の課題
- 「数字」への偏重
- 短期的な成果主義
- 研究者の「萎縮」

本提言
- 評価制度の改善
  - 多面的指標の導入（教育・社会貢献等）
  - 質を重視した審査
  - 長期的視点での評価
- 人材育成・支援
  - 評価者トレーニング
  - 審査員の質の向上
  - 多様なキャリアパス支援

目指す未来
- 多様な挑戦の促進
- 健全な研究環境の情勢
- 次世代の育成

現状の課題
近年、論文の数や引用された回数といった「数字」だけに頼る評価が、研究の多様性や新しい挑戦を難しくしていると言われています。

本提言
そこで、研究の目的や社会貢献といった多様な価値を測る指標の導入や評価者のトレーニングを踏まえて、改革の実装に向けた**7つの具体的方策（二次元コード参照）**を提案します。

目指す未来
研究者が萎縮することなく、挑戦的な課題に取り組める「健全な研究環境」と「文化」を取り戻すための、実践的なロードマップを示します。

提言の要旨・本文等は、こちら

令和7(2025)年11月27日公表

提言「研究の活性化へ向けた研究評価の具体的な改善方策」広報用チラシ

# 3．広報委員会

（委員長：磯　博康）

## 広報活動強化の具体的な取組

## ■日本学術会議ニュース・メールの内容拡充

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇日本学術会議ニュース・メール◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

No. 956　|　2026年3月6日

各種イベントの開催案内や賞推薦等の各種連絡に加え、
2025年12月より新たに以下の情報を発信

- 意思の表出の公表のお知らせ
- 特設ウェブサイト「日本学術会議の法人化について」の御案内
- 翌月の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定

●日本学術会議ニュース・メールは、
日本学術会議会員・連携会員、日本学術会議協力学術研究団体へ配信
https://www.scj.go.jp/ja/other/news/index.html（日本学術会議ウェブサイト）

■----------

1．【お知らせ】意思の表出：提言・見解・報告の公表について

----------■

【提言】日本学術会議は、会則第２条第３号に掲げる意思の表出として、以下の提言を公表しました。

・11 月 27 日（木）

○提言「研究力の危機と再構築：学術と社会を支える持続的な研究エコシステムの構築に向けて」

https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf2/kohyo-26-t394-2.pdf

（要旨）https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf2/kohyo-26-t394-2-abstract.pdf

■■----------

1．【お知らせ】特設ウェブサイト　日本学術会議の法人化について

----------□□

令和７年６月 11 日に日本学術会議法が成立し、日本学術会議は、令和８年10 月１日に法人へ移行することとなりました。

こちらのページでは、法人化の準備状況等を掲載しております。

https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/division-21.html

■■----------

5．【お知らせ】２月の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

----------□□

２月の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について、ウェブサイトからご覧になれます。

（令和８年１月 27 日日本学術会議記者会見資料）

https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kanji/pdf26/siryo395-s-schedule.pdf

# 3．広報委員会

（委員長：磯　博康）

## 広報活動強化の具体的な取組

## ■法人化後の「日本学術会議ウェブサイト」について

- 新たに「日本学術会議ウェブサイト」を構築
- 全てのページを新サイトに移行（重複ページ等を除く）
- 「シンプルで見やすく、情報が探しやすい」構造への整理
- 検索機能の向上、アクセシビリティへの配慮　等

### 検索機能の向上

✓ HTMLページに加え、文字情報をもっているPDFファイルの文章も含めて全文検索が可能に

✓ 現行サイトのような「サイト全体のキーワード検索」に加え、「提言・報告等に限定した検索」を実装（期や年/月、タイトル、分野（発出主体）等、複数条件による絞り込み検索が可能）

✓ 期や年/月、分野（発出主体）等を記載したHTMLページを提言・報告等ごとに作成（これまではPDFファイルのみの掲載）

⇒一般的なWeb検索や生成AIに参照される可能性も向上

「トップページ」イメージ

「サイト全体のキーワード検索」イメージ

「提言・報告等に限定した検索」イメージ

# ３．広報委員会

（委員長：磯　博康）

## 学術フォーラム、公開シンポジウム等の参加者数等について（2025年８月～2026年１月）

（注）・学術フォーラム、地方学術会議、地区会議、公開シンポジウム、共同主催国際会議市民公開講座、講演会等について、
参加者数等を取りまとめたもの。
・参加者数・Xいいね数は、集計時点の数値であり、その後変動があり得る。

| | 開催件数 | 参加者数 | | | X いいね数 | マスコミ等の反応（事後報道の有無） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 現地 | オンライン | 合計 | | |
| ８月 | 10 | 871 | 1,373 | 2,244 | 約50 | 北陸中日新聞、北國新聞、NHK、北海道新聞 |
| ９月 | 16 | 1,049 | 1,718 | 2,767 | 約80 | 中日新聞 |
| 10月 | 8 | 346 | 726 | 1,072 | 約90 | 日本経済新聞、京都新聞 |
| 11月 | 16 | 761 | 1,817 | 2,578 | 約140 | 日本経済新聞 |
| 12月 | 15 | 763 | 2,146 | 2,909 | 約70 | － |
| １月 | 7 | 315 | 1,513 | 1,828 | 約30 | － |
| 合計 | 72 | 4,105 | 9,293 | 13,398 | 約460 | |

# 4. 科学的助言等対応委員会

（委員長：磯　博康）

## ■任　務

- 部、委員会、分科会又は若手アカデミーから申し出のあった検討課題と骨子案に対する**助言**
- 勧告、答申、要望、声明、提言又は回答の案を**査読**
- 見解の案を**審議、承認**
- 部、委員会（分野別委員会を除く）又は若手アカデミーが作成する報告の案を**審議、承認**
- 勧告、要望、声明、提言又は見解に関する事後的な評価の**報告**（フォローアップ・インパクトレポート）**を受ける**

# 4. 科学的助言等対応委員会

■ 意思の表出の質の確保を図るため、第25期から幹事会の下に設置

意思の表出の種類（全8種類）

① 政府からの諮問に対する「答申」
② 関係機関からの審議依頼に対する「回答」
③ 政府に実現を強く勧める「勧告」
④ 政府や関係機関等に実現を望む「要望」
⑤ 政府や関係機関、広く社会に向けて意見を表明する「声明」
⑥ 政府や関係機関、広く社会に向けて、総合的・俯瞰的な見地から提案する「提言」
⑦ 政府や関係機関、広く社会に向けて、専門的な見地からの提案や意見の提示を分科会名等で行う「見解」
⑧ 審議の結果を分科会名等で発表する「報告」

# 4. 科学的助言等対応委員会

## 分野別委員会の分科会が「提言」「見解」「報告」を作成する場合の流れ

### ○提言

分科会：申出書（検討課題）の作成
→ 科学的助言等対応委員会：申出書（検討課題）への助言
→ 分科会：申出書（骨子案）の作成
→ 科学的助言等対応委員会：申出書（骨子案）への助言
→ 分科会：提言案の作成
→ 分野別委員会：査読①
→ 科学的助言等対応委員会：査読②
→ 幹事会：審議（承認）
→ 学術会議名で公表

申出（検討課題）時に一括提出も可

申出（検討課題）時に一括助言も可

### ○見解

分科会：申出書の作成
→ 科学的助言等対応委員会：申出書への助言
→ 分科会：見解案の作成
→ 分野別委員会：査読①
→ 部：査読②
→ 科学的助言等対応委員会：審議（承認）
→ 分科会名で公表

### ○報告

分科会：申出書の作成
→ 科学的助言等対応委員会：申出書への助言
→ 分科会：報告案の作成
→ 分野別委員会：査読
→ 部：審議（承認）
→ 分科会名で公表

# 4. 科学的助言等対応委員会

## 第26期　意思の表出の申出件数・発出件数の状況

発出件数/申出件数

令和8年4月2日現在

| | 提言 | 見解 | 報告 | 計 | ※発出率 |
|---|---|---|---|---|---|
| 科学者委員会 | 3/5 | 0 | 0 | 3/5 | ※60.0% |
| 第一部分野別委員会 | 0 | 1/15 | 4/7 | 5/22 | ※22.7% |
| 第二部分野別委員会 | 1/4 | 0/8 | 5/12 | 6/24 | ※25.0% |
| 第三部分野別委員会 | 1/3 | 0/10 | 0/10 | 1/23 | ※4.3% |
| 課題別委員会 | 2/3 | 1/1 | 0/1 | 3/5 | ※60.0% |
| 若手アカデミー | 0 | 1/2 | 0 | 1/2 | ※50.0% |
| 計 | 7/15 | 3/36 | 9/30 | 19/81 | ※23.5% |

（注）・意思の表出の種類、表題等は、作成手続の過程で変わり得る。

・作成分科会等が複数連名の案件は、便宜上、主たる窓口となっている分科会等に分類した。

今後の申出予定件数：4件（第一部 2件、第二部 2件、第三部 0件）程度

【参考】 前期（第25期）の意思の表出件数： 提言 8件　見解 37件　報告 27件　　合計72件

# 4. 科学的助言等対応委員会

## 科学的助言等対応委員会で申出書を受理した意思の表出(2026年４月２日現在)

※意思の表出の種類・表題等は、現時点のものであり、作成手続の過程で変わり得る。

※一覧表の案件名は、科学的助言等対応委員会で申出書を受理した順に記載している(番号は、本委員会で付与した整理番号)。

26-001は申出書が取り下げられたため欠番。　　公表済　　査読又は承認フェーズ

26-002 提言「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」(科学者委員会学術体制分科会)　※2024年11月28日公表

26-003 提言「我が国の機能性食品制度に関わる課題とその対応」(食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会、薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会)　COIを公表※2026年2月27日公表

26-004 提言「生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて」(情報学委員会)　※2025年2月27日公表

26-005 提言「量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望(仮題)」(情報学委員会)

26-006 見解「脳科学研究とその臨床応用に関わる倫理的課題」(基礎医学委員会神経科学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会、臨床医学委員会移植・再生医療分科会)

26-007 見解「教育データの利活用のさらなる促進に向けて」(情報学委員会・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会)

26-008 報告「DNA親子鑑定の実用化がもたらす家族観の揺らぎと法的・社会的課題」(臨床医学委員会臨床ゲノム医学分科会)
※2026年2月24日公表

26-009 提言「研究力の危機と再構築:学術と社会を支える持続的な研究エコシステムの構築に向けて」(我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会)　※2025年11月27日公表

# 4. 科学的助言等対応委員会

26-010 見解「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき課題ーフォローアップ（仮称）」（若手アカデミー）

26-011 見解「学術とスタートアップを両輪としたイノベーション創出に向けて」（若手アカデミー） ※2026年3月23日公表

26-012 見解「女性の政治参画を進めるための制度改革と環境整備について」（政治学委員会民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会、法学委員会ジェンダー法分科会） ※2025年11月17日公表

26-013 報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準　薬学分野」（薬学委員会薬学教育参照基準検討分科会） ※2025年12月22日公表

26-014 提言「研究の活性化へ向けた研究評価の具体的な改善方策」（科学者委員会研究評価分科会） ※2025年11月27日公表

26-015 提言「気候危機に対処するための産官学民の総力の結集ー循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への転換ー」（循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会） ※2025年10月27日公表

26-016 提言「壊滅的災害発生が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」（土木工学・建築学委員会IRDR分科会）

26-017 見解「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」（防災減災学術連携委員会） ※2025年11月27日公表

26-018 提言「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正の実現を目指してー2030年に向けた課題ー」（科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会） ※2025年10月27日公表

26-019 提言「包括的反差別法の制定に向けて～多種多様な差別を解消するために～」（科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会）

26-020 報告「災害対応と復興政策のための社会的モニタリングと復興アーカイブの実質化を目指して」（社会学委員会災害を克服する地域社会と社会的モニタリング検討分科会） ※2025年11月12日公表

# 4. 科学的助言等対応委員会

26-021 見解「新たな音響学の学術領域の創成とそれを推進するコンソーシアムの創設に向けて」（総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会）

26-022 報告「高等学校の生物教育における重要用語の選定について（2025年版）」（基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会） ※2025年11月14日公表

26-023 報告「情報教育課程の設計指針―初等教育から高等教育まで（第2版）」（情報学委員会情報学教育分科会）

26-024 見解「AI活用時代における経営人材・経営専門人材育成の変革」（経営学委員会AI時代に備える経営人材育成に関する分科会）

26-025 見解「現代の新生児医療における倫理的意思決定基準および代理意思決定の考え方」（臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同出生・発達分科会）

26-026 見解「多様性・包摂性・公平性を重視したケア共同社会の社会実装　市民とともに進める学融合的なケアサイエンス推進に向けて」（健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会）

26-027 見解「人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材」（健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会）

26-028 提言「学術を核とした地方活性化の促進」（学術を核とした地方活性化の促進に関する検討委員会）

26-029 見解「エイジ・フレンドリーな地域社会の実現－住民主体・住環境・データ活用を統合する学際的なアプローチ－」（健康・生活科学委員会高齢者の健康・生活分科会）

26-030 報告「Soil Health（土壌の健康）：国民的理解と持続可能な管理のイノベーションの推進」（農学委員会土壌科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同IUSS分科会、農学委員会植物保護科学分科会）

# 4. 科学的助言等対応委員会

26-031 報告「現代社会における多様なリスクに対する法的・政策的対応(仮題)」(法学委員会リスク社会と法分科会、環境学委員会環境政策・環境計画分科会)

26-032 報告「歯学分野の研究力の推移、及び歯学領域が抱える課題」(歯学委員会、同委員会基礎系歯学分科会、同委員会病態系歯学分科会、同委員会臨床系歯学分科会) ※2026年2月12日公表

26-033 見解「加熱式タバコ使用を含めた喫煙行動の調査・モニタリングの必要性について」(健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会)

26-034 見解「活動的縁辺域における持続可能な洋上風力発電開発に向けた海底地質リスク評価予測と対策に関するガイドライン」(総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会)

26-035 見解「ESD充実のための地理教育における小学校・中学校・高等学校までの一貫カリキュラムに向けて」(地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育・ESD分科会)

26-036 提言「未来の学術振興構想(2026年版)(仮題)」(科学者委員会学術研究振興分科会)

26-037 報告「福祉の価値とイノベーションの創発による福祉システムの共創」(社会学委員会価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会) ※2026年1月16日公表

26-038 提言「生活習慣病予防のさらなる推進に資する適切な用語・専門職及び多職種連携教育(仮)」(健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会)

26-039 見解「ジェンダー統計充実に向けた性別情報の意義」(社会学委員会ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会)

# 4. 科学的助言等対応委員会

26-040 見解「人文・社会科学におけるオープンサイエンスを踏まえた質的研究のためのデータ基盤の形成」（地域研究委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・心理学・教育学委員会・社会学委員会・史学委員会・法学委員会・経営学委員会・情報学委員会合同デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会）

26-041 見解「言語的少数者との共生のための、言語権概念の『学習指導要領』への導入（仮称）」（言語・文学委員会言語コミュニケーションと共生分科会）

26-042 見解「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題（仮題）」（総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会）

26-043 報告「心についての科学教育の未来像～よりよい社会を実現するために～」（心理学・教育学委員会心の科学のキャリアパス構築分科会）　※2025年12月22日公表

26-044 報告「サーキュラーエコノミーにおける資源循環を機能させるための学術課題」（材料工学委員会・環境学委員会・総合工学委員会合同サーキュラーエコノミーのための資源・材料の循環利用検討分科会）

26-045 見解「サービス化社会における共創価値の尺度について」（経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会）

26-046 報告「未来の学術振興構想に基づく材料工学の中長期研究戦略」（材料工学委員会材料工学中長期研究戦略分科会）

26-047 見解「ALPS処理水の海洋放出の影響評価と課題」（総合工学委員会原子力安全に関する分科会）

26-048 見解「国立心理科学研究所構想の推進」（心理学・教育学委員会心の総合基礎分科会）

26-049 報告「縮小社会を前提とした持続可能な国土・地域を構想するために」（地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会）
※2026年2月20日公表

# 4. 科学的助言等対応委員会

26-050 見解「今に活きる・活かす古典ー倫理・道徳教育における古典活用の可能性」（哲学委員会・心理学・教育学委員会合同今に活きる・活かす古典を考える分科会）

26-051 提言「わが国における獣医学の担う社会的役割の長期展望とその対応」（食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会）

26-052 見解「終末期・人生の最終段階における治療中止・差し控えと安楽死の法制化をめぐる現状と課題（仮称）」（哲学委員会現代における「いのち」を考える分科会）

26-053 報告「不安定化する世界における地域研究の社会連携体制の構築：現状と課題（仮称）」（地域研究委員会地域研究社会連携分科会）

26-054 見解「性的マイノリティの権利保障をめざして（Ⅲ）—司法判断の進展をふまえて— 」（法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会）

26-055 見解「婚姻の平等実現に向けた民法改正への提言— 相次ぐ違憲判決をふまえて— 」（法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会）

26-056 見解「「歴史教育」をとりまく「無意識のバイアス」の克服——ジェンダー史の視点から学習者をエンパワーメントする—（仮）」（史学委員会ジェンダー史学の知見と方法の社会実装分科会）

26-057 報告「先進技術システムのリスクアセスメントの構造について」（総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会）

26-058 報告「老朽・遺棄化学兵器廃棄事業の節目を見据えてー新たな課題とリスク管理に関する今後の在り方ー」（総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会）

# 4. 科学的助言等対応委員会

26-059 見解「粒子線がん治療産学共同研究および社会実装の国際的競争力増強の支援（仮称）」（臨床医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会）

26-060 見解「地名問題の総合的解決に向けて－地名問題の共有化・地名データベース作成・国際連携の三位一体アプローチ－」（地域研究委員会地域情報分科会）

26-061 見解「女性活躍を支える家族のウェルビーイングとワークライフバランスの実現」（経済学委員会ワークライフバランス研究分科会）

26-062 見解「サイバーセキュリティ研究・開発・教育における法的・倫理的課題」（情報学委員会サイバーセキュリティ分科会）

26-063 見解「カーボンニュートラル施策推進のためのリスク検討フレーム」（総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会）

26-064 報告「移植医療と再生医療の現状と課題－心停止後臓器提供と再生医療の治療をめぐって－」（臨床医学委員会移植・再生医療分科会） ※2026年3月13日公表

26-065 報告「子どもの生活に焦点をあてた子どもの育ちと子育てについての学びの充実に向けて」（健康・生活科学委員会生活者視点で健康と暮らしの課題を検討する家政学分科会）

26-066 見解「産業生物におけるゲノム編集技術の現状と課題」（農学委員会・食料科学委員会合同産業生物バイオテクノロジー分科会、農学委員会育種学分科会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会）

26-067 報告「海底下地層における二酸化炭素貯留施策推進の課題」（総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会）

26-068 見解「初等中等教育における算数・数学教育の改善について」（数理科学委員会数学教育分科会）

# 4. 科学的助言等対応委員会

26-069 報告「デザインをめぐる知の構築と社会的理解に向けて—公共的価値を支える多様な知と実践へ—(仮称)」(土木工学・建築学委員会デザインをめぐる知の構築と社会的理解分科会)

26-070 見解「マテリアル融合:物質・エネルギー・情報技術融合による新たな元素戦略(仮題)」(化学委員会無機化学分科会)

26-071 報告「多極分散型社会の実現に向けた農の役割」(農学委員会地域総合農学分科会)

26-072 見解「数学・数理科学の国際競争力強化と連携基盤の整備(仮)」(数理科学委員会数学分科会)

26-073 報告「先端材料研究開発における研究インテグリティ実施における課題」(材料工学委員会・総合工学委員会)

26-074 提言「生命科学データのオープンな流通と活用推進に向けて」(統合生物学委員会・基礎生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・基礎医学委員会合同ゲノム科学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会合同遺伝資源分科会)

26-075 報告「日本の高等教育における昆虫科学教育のあり方(仮)」(農学委員会応用昆虫学分科会)

26-076 報告「フューチャー・アースの推進と連携:Future Earth Japan Report 2026へ向けた学術的課題の個別・横断的な整理(仮題)」(フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会、同委員会地球環境変化の人間的側面分科会、同委員会SDGsの進捗評価分科会)

26-077 報告「プラネタリーヘルス:激変する地球環境におけるウェルビーイングの向上にむけて(仮称)」(環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会、地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会)

26-078 報告「ポスト・トゥルース時代における人々の歴史実践・歴史認識を取り巻く課題(仮)」(史学委員会教育現場・社会における歴史実践と歴史認識に関する分科会、同委員会アーカイブズと社会に関する分科会)

# 4. 科学的助言等対応委員会

26-079 報告「ネイチャーポジティブを実装可能にする生態科学：定義・指標・ミティゲーションヒエラルキー、そしてネイチャーファイナンス（仮）」（統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同生態科学分科会）

26-080 報告「高校生物：自分の興味のあることをとことん学べる環境を」（基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同遺伝学分科会）

26-081 報告「生成AIによる教育改革：グループ学習における特性可視化と参加促進環境の構築（仮称）」（総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会）

26-082 報告「老化分科会の提言・見解の社会的受容と発信の在り方― 認知・評価に関するアンケート調査報告―（仮）」（臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同老化分科会）

# 4. 科学的助言等対応委員会

## 意思の表出の作成に関して、各委員会・分科会へのお願い

1．意思の表出を行う時期について（2025年４月・10月総会における磯副会長報告資料より抜粋）
今期３年間における意思の表出は、原則、今期末の９カ月前（2025年12月末）までを目途に発出できるように努めていただきたい。これに間に合わない場合でも遅くとも今期末の６カ月前（2026年３月末）までに発出。
今期の最後の１年間は、原則、各関係機関等への周知、シンポジウム、フォローアップ等に充てていただきたい。

・今期は、タイムリー、スピーディな発出に向け、各分科会等が、時宜を得た発出やフォローアップを主体的に行うことを念頭に、何度か意思の表出に関する上記の様な「標準スケジュール」を提示してきたが、多くの案件が、申出時の発出スケジュールから遅延状態です。

・現在作成中の案件は、査読や承認手続に要する時間にも十分考慮し、大幅なスピードアップが必要です。
そのため、意思の表出の種類を見直すこと（例：提言→見解、見解→報告）や「記録」とすることも検討いただきたい。

・今後提出予定の意思の表出の申出については、科学的助言等対応委員会において種類の見直し（例：報告や記録）や今期発出の必要性も含めて、検討させていただきたい。

・今期中にフォローアップ・レポートの提出ができない場合は、次期の後継分科会等への確実な引継ぎをしていただきたい。

・次期の当初から、各分科会等で過去の意思の表出を振り返って、中長期的なインパクト・レポートの作成についても検討いただきたい。

# 4. 科学的助言等対応委員会

## 次期以降の申出、査読等の効率化について（主な見直し案）

①「提言」の申出書について、手続に要する時間短縮のため、現在運用上の措置である**検討課題と骨子案の同時提出を定型化**

② 査読プロセスの迅速化: 質の担保の上で、現行**「二段階」の査読を「一段階」に集約**

- 「提言」: 分科会を設置した委員会の査読と科学的助言等対応委員会の査読の一体化（承認は役員会）

  ※査読体制: 委員会2名、対応委員会3名、取りまとめ（エディター）1名

- 「見解」: 分科会を設置した委員会の査読と部の査読の一体化（承認は科学的助言等対応委員会）

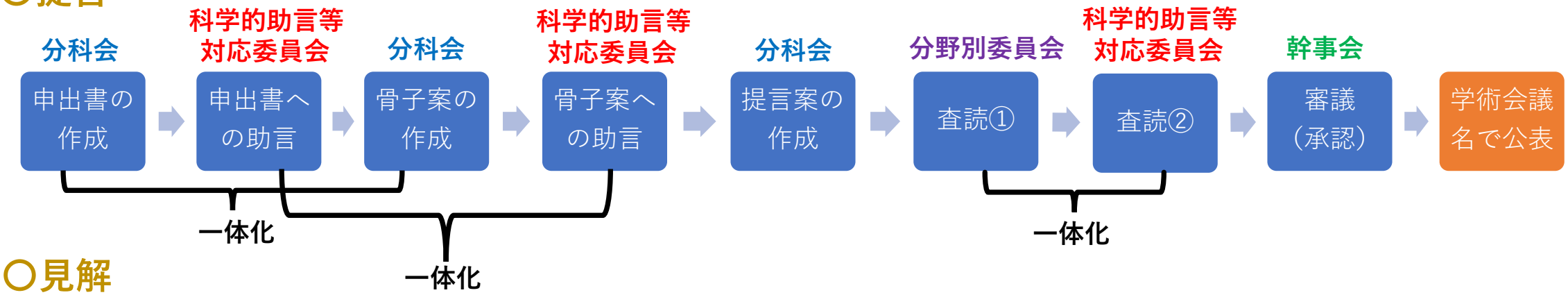
  ※査読体制: 委員会2名、部2名、取りまとめ（エディター）1名

- 「報告」: 査読は 1 回のみなので、現行どおり（承認は各部等）
- 取りまとめ（エディター）: 会員、学術調査員等（要検討）

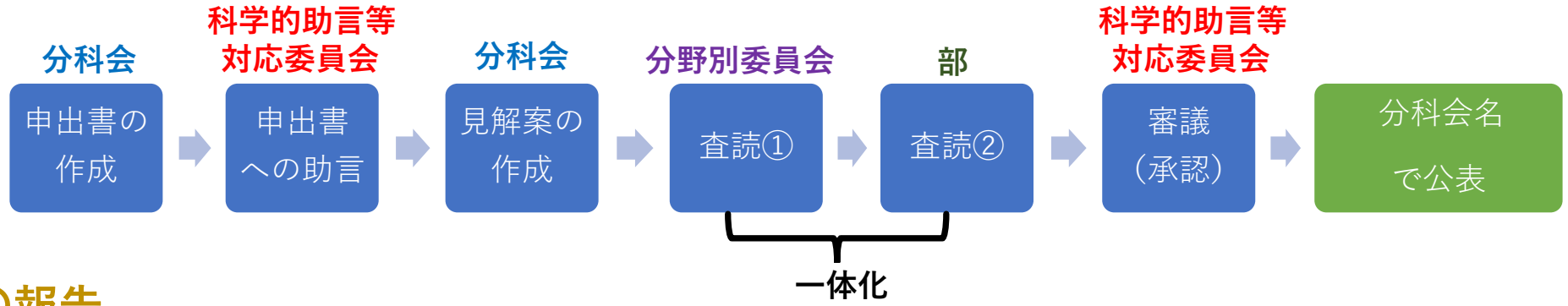
# 4. 科学的助言等対応委員会

## 見直し案のイメージ

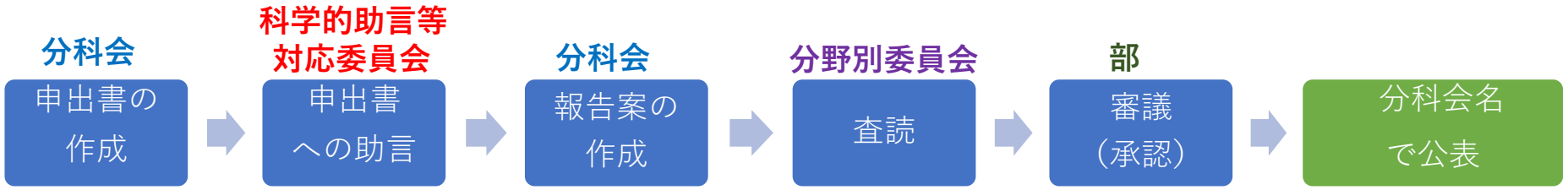
### ○提言




### ○見解




### ○報告



# ５．その他

## 日本科学未来館との連携

●日本学術会議と日本科学未来館の協働イベントの開催

日時：2026年8月8日（土）予定

会場：日本科学未来館

内容：

・トークイベント＋研究者とのグループディスカッション（中学生、高校生、大学生向け）

・未来館展示ツアー（小学生とその保護者向け）

- トークイベントのテーマは、『AI』！
- 詳細は、決まり次第、日本学術会議、日本科学未来館のウェブサイト等に掲載予定。

# 日本学術会議　国際活動報告
# （2025年10月～2026年４月）

2026年４月９日　第196回総会

第26期　日本学術会議副会長（国際活動担当）

日比谷　潤子

# 第26期の活動方針

**日本学術会議のより良い役割発揮に向けた検討や日本学術会議の国際戦略を踏まえ、国際活動のさらなる発展を目指す**

1. **地球規模課題等への対応について、各国アカデミーや国際学術団体等との交流や連携強化**
   - ✓ 国際学術会議（ISC）への積極的参画や、インターアカデミーパートナーシップ（IAP）等加入国際学術団体等に対するより一層の貢献
   - ✓ Gサイエンス学術会議（S7）やサイエンス20（S20）等における各国アカデミーとの連携強化
   - ✓ 次世代科学者の参加機会の創出・拡大
   - ✓ 継続的な国際活動の実施の検討
2. **アジア地域におけるリーダーシップの発揮**
   - ✓ アジア学術会議（SCA）の運営・開催等
3. **国内外に向けた情報発信の強化**
   - ✓ 日本学術会議の国際活動、その成果のわかりやすい発信

# 国際活動の全体像

## 国際学術団体等への加入・貢献

- 国際学術会議（ISC）International Science Council
- InterAcademy Partnership (IAP)
- 学術領域別・地域別国際学術団体

役員・代表の派遣

各アカデミー

Gサイエンス学術会議(S7)

サイエンス20（S20）

連携と交流

事務局

アジア学術会議(SCA)の運営・開催

Future Earth(FE)国際事務局の活動支援

主催・共同主催

国際会議・シンポジウムの開催

# 報告内容

## 1. 各国アカデミーとの連携・交流

①Gサイエンス学術会議(S7)

②国際アドバイザリーボード（ラウンドテーブル・セッション）

③サイエンス20 (S20)、④二国間交流、⑤世界科学フォーラム(WSF)

## 2. 加入国際学術団体等への貢献

①代表派遣、②国際学術会議(ISC)、

③インターアカデミーパートナーシップ(IAP)

## 3. 国際会議の共同主催及び後援

## 4. 国際会議の主催(持続会議)

## 5. アジア学術会議(SCA)の運営

## 6. フューチャー・アースの国際的展開

## 7. 国内外に向けた情報発信

# 1. 各国アカデミーとの連携・交流

- **①Gサイエンス学術会議（Science7（S7））**
  - ✓ G7サミット参加各国アカデミーがG7サミットに向けた科学的な政策提言を作成し、共同声明として公表。日本学術会議では、共同声明案について議論するため、2026年2月に分科会を開催。
  - ✓ 会議には、日本学術会議を代表して光石会長と関谷毅会員（第三部・幹事）が参加予定。

**●開催概要**

日時 ： 2026年5月17日(日)～19日(火)

場所 ： フランス(パリ)

主催 ： フランス科学アカデミー

French Academy of Sciences

Science summit for the G7 2026

**●各テーマ担当専門家（分科会委員）**

| | |
|---|---|
| Ⅰ. 仁田 工美 | 連携会員(特任)<br>国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)安全・信頼性推進部システム安全・軌道利用安全推進ユニット技術領域主幹 |
| Ⅱ. 榎本 浩之 | 連携会員(特任)<br>大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所副所長／特任教授 |
| Ⅲ. 尾崎 紀夫 | 第二部・部長<br>名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学特任教授 |

**●共同声明テーマ**

Ⅰ. Large satellite constellations: perspectives and challenges
（仮訳：大型衛星コンステレーション：課題と影響）

Ⅱ. The global Arctic: unprecedented change, global stakes
（仮訳：グローバルな北極域：かつてない変化と地球規模の利害）

Ⅲ. Advancing brain health, including mental health, for global societal resilience
（仮訳：メンタルヘルスを含む脳の健康の推進：グローバル社会のレジリエンスに向けて）

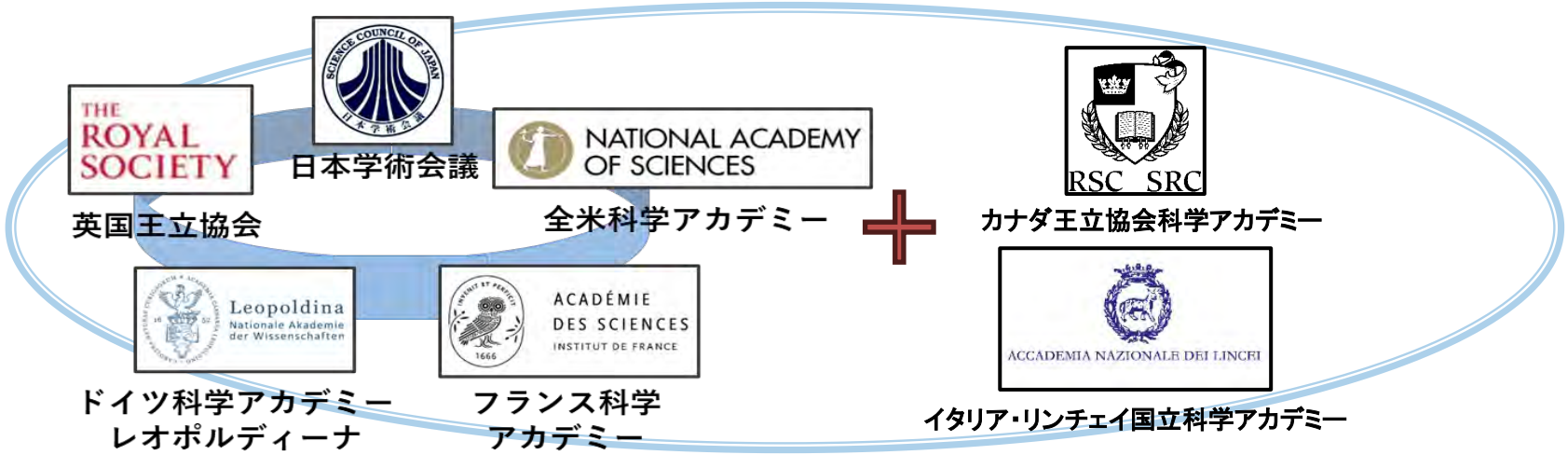
# 1. 各国アカデミーとの連携・交流

## ● ②国際アドバイザリーボード（ラウンドテーブル・セッション）

### （日本学術会議の提案によるラウンドテーブル・セッションの開催）

- ✓ 海外のナショナル・アカデミー等との連携強化等のため、「日本学術会議国際アドバイザリーボード」を設置し、これまで二度にわたり、G7の主要アカデミーの代表者等と積極的な意見交換の場を設けた。
- ✓ アドバイザリーボードの枠組みによる交流をさらに促進させるため、各アカデミーが一同に会する「Gサイエンス学術会議2026」（前述）のプログラムの一環として、ラウンドテーブル・セッションを設けることについて、日本学術会議よりホストアカデミーへ提案し、これが承認された。セッションは5月19日に開催予定。

**●ラウンドテーブル・セッションへの参加アカデミーについて**




**G7各国ナショナル・アカデミーのトップ同士による、独立性、自律性及び学問の自由に関する率直な意見交換を目的とする。**

# 1. 各国アカデミーとの連携・交流

- **③サイエンス20（Science20（S20））**
  - ✓ G20サミット参加国・地域のアカデミーがG20サミットに向けた科学的な政策提言を作成し、共同声明として公表予定。
  - ✓ 共同声明の作成に向け、2026年6月15日及び16日に、アメリカ・ワシントンD.C.において草案検討会議が開催される予定。日本学術会議からは、光石会長及び日比谷副会長が参加予定。

## サイエンス20(S20)2026について

**●開催概要**

**日時** ： 2026年9月（未定）

**場所** ： アメリカ・ワシントンD.C.

**主催** ： 全米科学アカデミー（US National Academy of Sciences）

※ G20サミットは同年12月14日、15日にアメリカ・マイアミにて開催予定。

NATIONAL ACADEMY OF SCIENCES

**●全体テーマ**

**Strengthening Resilience to Natural Disasters through Emerging Technologies and International Collaboration**

（仮訳：新興技術及び国際協力を通じた自然災害へのレジリエンス強化）

※ 2026年4月頃より、共同声明案を国際委員会及び関係分科会に対して意見照会する予定。

# 1. 各国アカデミーとの連携・交流

- **④二国間交流**

✓ 駐日大使館やアカデミーの関係者との個別交流を実施し、相互の連携・交流の促進を図った。

| | |
|---|---|
| 11月4日 | フィンランド科学・文学アカデミー国際活動担当秘書官と会談 |
| 11月10日 | 駐日パキスタン大使館にて駐日パキスタン大使と会談 |
| 11月18日 | ベトナム科学技術連合会（VUSTA）副会長と会談 |

フィンランド科学・文学アカデミー国際活動担当秘書官
（日本学術会議会長室にて）

駐日パキスタン大使
（駐日パキスタン大使館にて）

ベトナム科学技術連合会（VUSTA）副会長
（日本学術会議会長室にて）

# 1. 各国アカデミーとの連携・交流

- **⑤世界科学フォーラム（World Science Forum：WSF）**

✓ 科学者や政策決定者、民間部門の代表者が科学の役割と貢献について議論し、政策提言を発信する場として、2003年から隔年で開催。

WSF2024の模様
（2024年11月、ハンガリー・ブダペストにて）

＜今後の開催予定について＞

✓ 2026年の開催に当たっては、当初はWSF2026として11月にインドネシア・ジャカルタにて開催予定であったが、諸般の事情により、名称をWSF2027と改めた上で、2027年３月18日～21日にトルコ・イスタンブールで開催される予定となった。

✓ WSF2027のプログラム案審議等のため、2025年12月12日及び2026年２月19日にWSF運営委員会がオンラインで開催され、日本学術会議からは日比谷副会長が参加。

# 2. 加入国際学術団体等への貢献

- **①代表派遣**

✓ 日本学術会議が加入する国際学術団体の総会等に対し代表者を派遣

✓ 国際学術団体における国際基準・ルール策定などの議論に参画することで、日本の学術のプレゼンスの向上に貢献

✓ 代表派遣実績（2025年度）

30会議に31名を派遣

（現地29会議30名、オンライン1会議1名）

✓ 代表派遣実施状況（2026年度）

35会議39名の派遣計画を決定

アテネ（ギリシャ）で開催された国際鉱物学連合（IMA）等の会議（2025（令和7）年10月）にて、研究発表を行う派遣者の阿依連携会員（特任）。

# 2. 加入国際学術団体等への貢献

- **②国際学術会議(ISC)**

## ●日本人関係者間の連携強化

✓ 2026年３月、ISCに加盟する国際ユニオン等の日本人関係者と日本学術会議関係者との間で、意見交換や交流を目的として、第５回ISCプラットフォーム会議をオンラインで開催。

## ●持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2026

✓ 2026年７月の「持続会議2026」の開催に際して、ISCグルックマン会長及びダイクラーフ次期会長による基調講演を予定。

日時　：　7月13日(月)9:00～17:00
場所　：　日本学術会議講堂及びオンライン(ハイブリッド)
テーマ：　科学の信頼向上：公共善と政策立案における科学の役割

## ●ISC中間会合への参加

✓ 2026年、10月19日（月）～23日（金）の期間にて、ISC中間会合が中国・北京で開催予定。当会合に日本学術会議から参加を予定。

# 2. 加入国際学術団体等への貢献

- **③インターアカデミーパートナーシップ（InterAcademy Partnership：IAP）**

✓ 2025年12月、IAP総会がエジプト・カイロにて開催され、日本学術会議からは、小田中直樹第一部・幹事（※）及び若手アカデミー加納圭連携会員が参加。※IAPコミュニケーション・教育・アウトリーチに関する委員会委員に就任（2025年12月～）

✓ AI、地球温暖化など、地球規模の政策課題について、科学コミュニティとしての使命感と解決に向けた取り組みの方向性を共有。

**●開催概要**

**日時**　：　2025年12月8日（月）～11日（木）

**場所**　：　カイロ（エジプト）

**参加者**：　日本、米国、ドイツ、英国、フランス、他63ヵ国
（計164名（うち日本人の現地参加者は、日本学術会議4名））

総会の様子

パネルで発言する加納圭連携会員

参加者集合写真

# 3. 国際会議の共同主催

- **共同主催国際会議の運営**

✓ 令和7(2025)年度は7件の会議を共同主催。10月、11月は以下の会議の開会式に皇室の御臨席を賜った

| 第15回国際口蓋裂・頭蓋顔面異常学会国際会議 （2025年10月） | 2025年フォトニクス・電磁波工学研究に関するシンポジウム（2025年11月） |
|---|---|
| 秋篠宮皇嗣同妃両殿下の開会式御臨席及び皇嗣殿下のおことばを賜る | 天皇陛下の開会式御臨席及びのおことばを賜る |

✓ 令和8(2026)年度共同主催国際会議として「第41回世界獣医師会大会」をはじめ、6件の会議開催に向け準備中。

✓ 令和9(2027)年度共同主催国際会議候補として「北極科学サミット週間2027」など8件を幹事会決定。

- **日本政府観光局(JNTO)との連携**

✓ 2025年12月に、JNTO主催の講演会「国際会議主催者セミナー」において、国際会議誘致・開催に係る日本学術会議の支援内容について紹介。

国際会議主催者セミナーの様子

# 4. 国際会議の主催(持続会議)

- **「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」(持続会議)**
  - ✓ 2003年以降、持続可能な社会のための科学と技術に関する課題を議論するため、国際会議を毎年主催。

**開催概要**

日時　：2025年2月11日(水・祝)　10:00～17:25
　　2月12日（木）　9:20～15:50
場所　：ハイブリッド（日本学術会議講堂、オンライン）
テーマ：将来の学術を担う若手研究者を中心とした研究力強化と頭脳循環を目指して
参加者：**延べ 527名**

| | |
|---|---|
| 会場参加 | **延べ102名**（うち、子ども ３名） |
| オンライン参加 | **延べ425名**<br>日本、イスラエル、インド、オランダ、カンボジア、ドイツ、中国、ブラジル、ポーランド他、計21カ国・地域から参加 |

※日本学術会議庁舎内にキッズスペース及び授乳室を設置
（キッズスペース利用は３名）

来賓挨拶で登壇する小野田内閣府特命担当大臣

登壇者の集合写真

# 5. アジア学術会議(SCA)の運営

## • 第24回 アジア学術会議（パキスタン会合）

Science Council of Asia

- ✓ 2025年11月16日から18日の間、**パキスタン科学アカデミー（Pakistan Academy of Sciences）**の主催により、**第24回アジア学術会議年次会合がパキスタン・イスラマバードで開催**。「食料安全保障、持続可能性、生物多様性」をテーマに、**20か国・地域より約150名が参加**。
- ✓ 日本学術会議からは、「令和7年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（令和7年2月27日第381回幹事会決定）」に基づき、**以下の会員・連携会員が対面およびオンラインで登壇**。
- ✓ 2025 – 2026の新役員として、日本学術会議からは、**髙山弘太郎 第二部会員**が、澁澤栄連携会員の後任として**アジア学術会議事務局長**に新たに就任した。

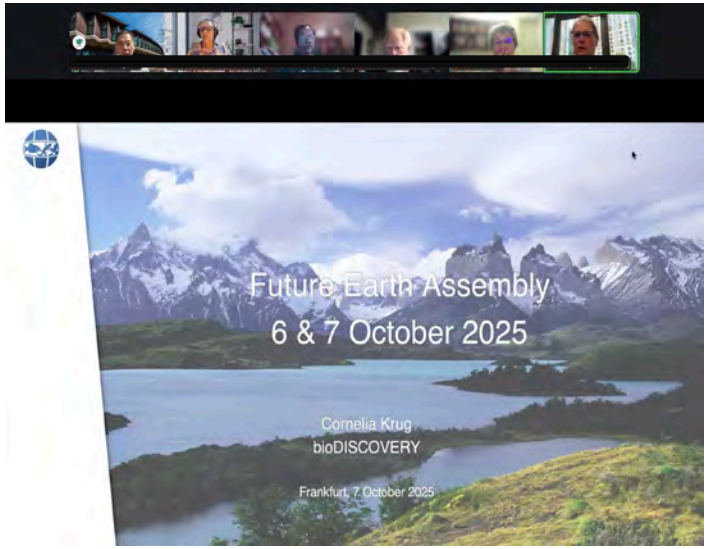
| 日本学術会議から参加した会員等（6名） ※肩書は会議開催時点 |
|---|
| **髙山　弘太郎　第二部会員**<br>（豊橋技術科学大学大学院工学研究所教授／愛媛大学大学院農学研究科教授） |
| **光石　衛　日本学術会議会長・第三部会員**<br>（独立行政法人大学改革支援・ 学位授与機構理事／東京大学名誉教授） |
| **春日　文子　連携会員**<br>（長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授／Future Earth国際事務局日本ハブ事務局長） |
| **標葉　隆馬　連携会員**<br>（慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科准教授） |
| **白鳥　佐紀子　連携会員**<br>（国立研究開発法人国際農林水産業研究センター情報広報室プロジェクトリーダー） |
| **松山　亮太　連携会員（特任）** *オンライン参加<br>（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門任期付研究員） |

日本学術会議からの代表派遣者
（左より、標葉連携会員、髙山会員、光石会員、春日連携会員、白鳥連携会員）

# 6. フューチャー・アースの国際的展開

- 日本学術会議は、2021年9月に発足した国際事務局(9か国・地域にて構成)ハブの一つである日本ハブの主要支持機関として機能

✓ 「令和8年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針」及び「令和8年度フューチャー・アースに関する国際会議等への外国人招へいの基本方針」を決定し、令和8年度(2026年度)の活動計画を策定。




「第5回フューチャー・アース総会」

futurearth
research for global sustainability

# 7. 国内外に向けた情報発信

✓ 主な国際活動の成果の発信（HP及びX（旧Twitter）、ニュースメール）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2025年 | 11月 | ： | 第24回アジア学術会議（パキスタン会合） |
| | 12月 | ： | インターアカデミーパートナーシップ（IAP）三年次会合・総会 |
| 2026年 | ２月 | ： | 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2025 |

等

この他、国際学術団体や各国アカデミー等が有する広報ツールを利活用。